梅田川 昔の子どもの川あそび ①

地元の長老にうかがいました

By さわだ きよみ

新治町
仲丸平八さん
昭和元年生まれ
新治町 現自治会長

新治町
芦垣 松平さん
大正七年生まれ

（お二人のお話を簡単にまとめさせていただきました。）

ドジョウはよくとったねぇ…

昔は大人も子どもも、ドジョウなんかよくとった。とるだけでもおもしろいが、ナスと一緒に「卵とじ」なんかにすると、おいしいおかずになったねぇ。

魚をとるしかけ **ド（ドウ）** 竹でつくった。（これは略図です）

田んぼの水路にしかけておくと、一晩で20～30匹とれることもあった。

夜、親子で行った **ドジョウブチ（ドジョウウチ）**

竹棒の先に10cm位の針をたくさん刺してつくった。これで夜じっと眠っているドジョウを打つ。

田んぼのあぜを照らした **松のヒデ** 松の根っこ（松根油）を燃やす。

いちばんおもしろかった「けいぼり」

ケイボリ（カイボリ）

川が蛇行しているところを土なんかでせきとめて、5～6人でバケツで水をくみ出す。

端のくぼんでいるところ（ガンゴ）には、フナやハヤ、エビなんかいっぱいいた。毛がいっぱいあるモクタガニなんかも、すきまにいる。とにかくいっぱいとれてこれがいちばんおもしろかったよ。

いろんなあそびができた

夏は男も女も、小さい子はみんなハダカになって川で遊んだ。堰（せき）の上でも水がいっぱいの時は泳いだ。川の両側を、草や竹がおおっていて、トンネルみたいになっていた。ウナギやハヤ、タナゴ…いろんな魚がいたけど昭和30年代後半の農薬の使用なんかでみんないなくなってしまったねぇ…。

ドクの実

（エゴノキの実）この実を石灰と一緒に袋に入れてつぶし、川に流すとドクにやられて、ウナギやフナがういてきた。（注：一応これは法では禁止されています。）

'97.12.22 訪問者／大槻、松林、沢田

班日誌

下の写真はお正月休みの1月4日に行った川の生物調査の様子です。今や編集会議メンバーの川との関わりは取材活動という枠に収まることなく深まるばかりです。もっと川にかかわってみたい！そうお考えの皆様の編集会議への参加をお待ちしております。

新治町のお年寄りに川あそびのヒヤリングを始めました。いつか復元してみたいなぁと思うあそびが山ほどありました。沢田清美

世界から友だちが見にくるような梅田川にしよう。古稀を迎えてなお盛んな男・大槻

杉沢上堰周辺を生き物がどう利用しているのか一度みんなで調べてみませんか？（酒巻）

今回の編集会議で話題に登った"タイコウチ"、今度ぜひ見てみたいです。川原田

今年も皆様にとって良い年になりますように。荒井美鈴

梅田川 水辺の楽校 新聞

第2号
■発行日
平成10年1月17日
■発行
梅田川・水辺の楽校
新聞編集部
■事務局
横浜市下水道局
河川部
TEL045-671-2859
FAX045-651-0715

こんなものが見つかりました！～発見マップ～

2回目を迎えた梅田川・水辺の楽校川づくりワークショップは、秋の面影が残る昨年の12月6日の土曜日に行われました。当日は晴れ渡り、暖かく程好いウォーキング日和。みんなで話しながら梅田川沿いを歩き、川の現状を確認しました。

この発見マップはそのときにみんなで見つけたものをまとめたものです。季節が変わればまた違ったものが見つかるかも知れません。

並木のある古い道

自然写真家三枝さんのお話

「水辺の楽校（みずべがっこう）プロジェクト」について

「水辺の楽校プロジェクト」は、建設省が平成8年度に創設したモデル事業の一つであり、地域の方々や学校関係者との連携を図り、河川等の水辺を子供たちの遊び場や自然体験の場として役立てていくことを目的としています。

湧き水を瓶で受けていました

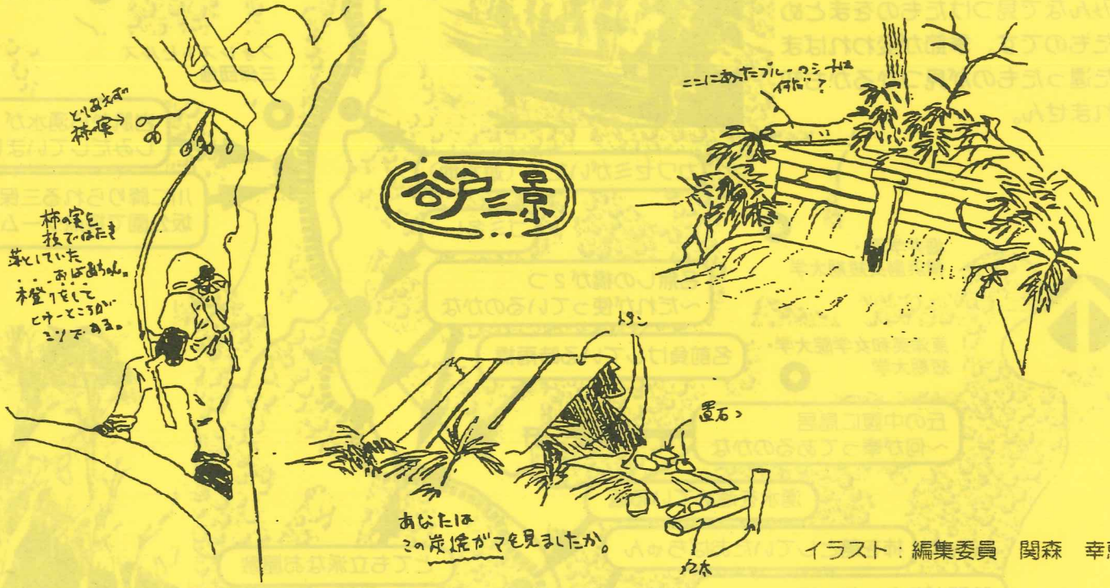
こんなものもありました！こんな雰囲気でした！

ここでは、ワークショップメンバーである編集委員自らが見たこと、感じたことをそれぞれまとめてみました。このページを見るともっと歩きたくなりますよ。

今回の梅田川ウォーキングの最初のポイントは梅田谷戸でした。ここには、谷の奥まで水田が続いており、そのわきを流れる水路の水の清らかなこと。今まで講演会で聞いてきた、谷戸と湧き水の関係を何よりも雄弁に語ってくれました。夏にはホタルも見られるそうで、四季を通じて足を運んでみたいところです。

写真／文：編集委員　川原田　貴子

梅田谷戸の入り口付近の里にもたくさんの発見がありました。手入れの行き届いた雑木林。竹林。今も湧き水を満々と湛えている井戸。そしてこれらを保ち続けているのは、柿の実を棒でつつきながら一生懸命落としていたおばあちゃんや、途中リアカーに鍬を積んですれちがったおじいさんなど、ここに住んでいらっしゃる方々なのでしょう。これらの生きている谷戸の風景が梅田川の源であり、命であると実感させられたウォーキングでした。



イラスト：編集委員　関森　幸恵

杉沢上堰と水生生物　～冬の観察会～

文：編集委員　酒巻　一修

この度１月４日にワークショップの有志数人で杉沢上堰周辺での水生生物の観察会をおこないましたので、その様子について、特に魚類の観察結果からご報告いたします。

梅田川流域においては、既に横浜市等の調査によってコイ科を中心とした11種類程度の魚類の生息が報告されていますが、今回私たちがおこなった杉沢上堰周辺の観察会では、それに準じたコイ、ギンブナ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、オイカワ（幼稚魚）等の８種類の魚類をみつける事ができました。これらは全て回遊をしない「純淡水魚」と呼ばれるグループの魚で、梅田川のような谷戸を流れる河川では何れも一般的な魚種であると考えられます。

堰の周辺は、瀬や淀みの他、堰によって造られた湛水域（Ｄ型淵といいます）や用水路の流入がある等、非常に変化に富んだ環境が備わっていますが、これらの魚は瀬や川の中央部ではあまりみられず、主に（おそらく越冬のために）川岸の草が水に浸かった箇所の奥や淀み、淵の底、石の下等でじっとしているのが観察されました。

この観察会は、機会があれば今後も続けたいと思っています。皆さんの参加をお待ちしております。

こんなキーワードがでました

梅田川を歩いた後、新治町自治会館において話し合いが行われました。それぞれのグループでは活発な討議が行われ、川歩きの感想や川づくりのアイデアが出されました。

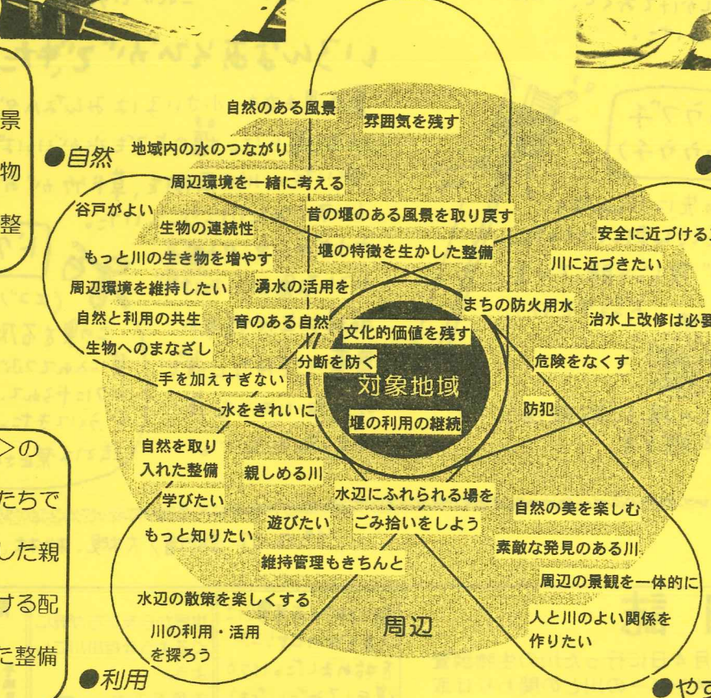
これらから、対象地区の整備プランを考える上で、５つの重要なキーワードに整理できました。ここで、各グループで出されたテーマと５つの評価軸に分類したアイデアをご紹介いたします。

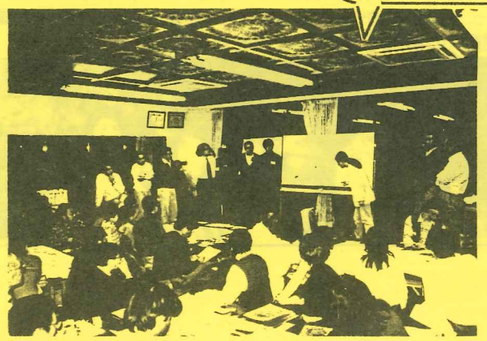
各グループからは話し合いの結果、対象地区のプランづくりに向けての検討テーマが出されました。３回目のグループワークが楽しみですね。

B班<ネムノキ>の
今後の検討テーマ
「周辺とのつながり」
「文化として残す」
「音のある自然」

A班<堰と緑>の
今後の検討テーマ
「昔の堰のある風景を取り戻す」
「もっと川の生き物が増えてほしい」
「堰を残すような整備の仕方」

C班<ホタル>の
今後の検討テーマ
「文化財的価値」
「生物の連続性」
「まちの防火用水」
「子どもの遊び場」
「独特の雰囲気」



D班<オニグルミ>の
今後の検討テーマ
「堰は何らかのかたちで残す」
「堰の特性を活かした親水整備を行う」
「人が安全に近づける配慮をする」
「周辺環境を含めた整備計画をたてる」

E班<カワセミ>の
今後の検討テーマ
「川への近づきやすさ」
「安全への配慮」
「子どもが安全に遊べる整備」